

令和4(2022)年度 学校評価の重点目標・評価項目・評価の観点 [最終評価]

学校教育方針	中・長期目標	次年度への課題
<p>・本校は、教育基本法並びに学校教育法に則り、新しい時代に相応しい健全な家庭人、有能な社会人として、教養豊かな女性教育を育成することを目的とし、特に仏教精神を基盤とした情操道義の教育に重点をおく。</p> <p>・建学の精神「うつくしく生きる」を基とした教育活動を行う。浄土真宗の教えに基づいた仏さまの教えを通して「大切にされているわたしに目覚めていのちを輝かせる」教育活動を実践する。</p> <p>・地域から愛され、選ばれる学校を作る。</p>	<p>・教育方針を基本とし、時代に即した教育を行う。</p> <p>・「建学の精神」の具現化に努める。</p> <p>・「和顔愛語」「先意承問」の精神の具現化に努める。(和やかな顔・表情、美しく優しい言葉、相手の立場に立って誠意をもって立居振る舞う)</p> <p>・「B・A・S・E」(勉強・挨拶・掃除・笑顔)4つの基本を大切にする。</p> <p>・「いのち」「時間」「ことば」を大切にする。</p>	<p>・全ての学校活動(授業・行事など)において、建学の精神を基にした活動が、時代の流れに即した形で実践できるよう、引き続き教職員の共通理解と意思の疎通、研修等を図っていく。</p> <p>・本校のランドデザインを作成する。</p>
	今年度の重点目標	次年度への課題
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「建学の精神」の共有 2. 入学者の確保 3. 教育の質の向上 4. 生徒に対する支援の充実 5. 地域貢献・地域連携活動の推進 6. PTA・同窓会との協力 7. 進路支援の強化・充実 	<p>・「with コロナ」の考え方に切り替え、従来のやり方にこだわらず、新しく柔軟な対応策を模索し、更なる教育活動の充実に努める。</p> <p>・生徒と教職員間の関係を良好に保ち、対話を重ね、生徒一人ひとりの進路実現を保証できる進路指導に努める。</p> <p>・コロナ禍で途絶えていた地域の方々との繋がりやPTAの繋がりを再び強固なものにしていく。</p>

《達成度 A：ほぼ達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：不十分》

【事業目標1】 建学の精神「美しく生きる」の理解を深め、常に意識する							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
宗教行事	積尊降誕会・報恩講への全校生徒と全教職員の積極的な参加を行う	校長・宗教科・学生会	1	宗教行事に積極的に主体的に参加することができたか。	A	1年生は宗教行事を経て、12月の東本願寺研修であったため、前向きに取り組むことができた。3年生はコロナ禍で2年次に東本願寺に行けず2月に「東本願寺参拝」を企画。約90名が参加。「飯田女子高校の歴史を知る」という事前学習を行い、学年の全生徒が卒業を前に改めて母校を深く知る機会を得たことと合わせ大変効果的だった。「仏教」の授業や日々の労作、宗教行事を通して自分に与えられた「いのち」について考え、自分の人生を主体的に歩んでいくことの大切さを学んだ。	「東本願寺研修」は本校にとって最も重要な行事として位置付けるべき。また職員にとっても本校の原点、自分の原点を訪ねる研修となるよう、次年度より研修日程中に引率職員の座談を実施する。
学校行事	「東本願寺研修」(1・2年生)を通し、本校が存在する意味を理解し、そこで学んでいく意義を探す。		2	本校で学習以外に何を学ぶのかを理解できたか。			
通年	「仏教」の授業はもちろんのこと、その他の授業や行事・課外活動においても、全て仏教の精神がその根本にあり、その考えのもと教育活動を行う。		3	全校生徒と全教職員が本校で学ぶことを理解しているか。			
宗教研修	初任研修・宗教研修・宗教担当者研修への積極的な参加。	管挿職・宗教科	4	研修で得た知識、発見から、自ら本校で仕事をする意義を考え、伝えることができたか。			

【事業目標2】 B(勉強)A(挨拶)S(掃除)E(笑顔)の基本を大切にする							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
BASES/E	普段から「勉強・挨拶・掃除・笑顔」を意識し、学校生活を送る。	学生会	5	何のために勉強し、挨拶し、掃除し、笑顔であるのかを自覚でき、実践できているか。	A	3年間指導し続けてようやく自発的な実践に繋がった。教員が伝え続けることで、生徒の意識も定着した。やはり伝え続けることが大切。	時間の経過とともに「慣れ」が生じ、取り組みの姿勢が甘くなってしまう。学年を追うごとに要求レベルを上げる指導も必要。

【事業目標3】 南無阿弥陀仏の教えを学ぶ							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
心の豊かさを	「いのち・時間・ことば」を大切にする。	学生会	6	自分の人生を大切に生きているか。	B	仏教行事を中心に静かに自分自身と向き合う機会を得た。少しずつ浸透してきていると思うが、まだ十分とは言えない。	日々の活動や、行事など様々な活動を通して考える場面作りが必要。SHR・修礼の時間を有効活用し、時には担任が具体的な題材で問題提起するなどの積み重ねを心がける。

【事業目標4】 入学生数の安定を図る(教職員全員が募集活動)							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
特色の明確化	私学・仏教・女子教育を明確に打ち出す。	管理職・生徒募集	7	地域から、理解され、認められているか。	A	受験者数が288名と過去5年間で1番多かった。進学コースEクラスSクラス総合コースの幅広い受験者層にあって、基礎学力があればそれなりの得点を取れつつ、学力の高い受験生の力量を測れる問題の形が確立されてきている。入学生が本校受験を決めるきっかけは「体験入学」が多い。中学生の体験入学参加者数をいかに増やすかが大きな課題。	時代のニーズにあった効果的な情報発信の仕方を更に研究してゆく必要あり。 一般入試の問題は少しずつレベルアップしていると評価できるので、今後の舵取りが重要と考える。
入試方法	本校独自の入試方法を行う。	管理職・教務・生徒募集	8	入試方法の改定が中学校側に理解され、多くの受験生があったか。			
進路への検討	進学コースの内容を検討し、より本人の進路にあったコースを選択できるようにする。	管理職・教務・生徒募集	9	進学率・進学実績等から、進学コースが広く世間に評価され、入学者が増えたか？			
施設設備の充実	学習活動・課外活動がより安全に効果的に行えるように施設設備を整える。	管理職	10	講堂の新設か耐震設備か取り壊すかの議論を行えたか。自習室の拡充ができたか。	B	講堂については未定。 新入学予定者が1クラス増えることに伴い、自習室をHR教室に置き換えて対応。現在自習室の新設を検討中。	

【事業目標5】 個々の学力・人間力の向上を目指し、進路の実現を図る							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
学習意欲の確立	新教育課程に即し、本校独自の教育を行う。ICTを活用しての「個々に応じた学び」を行う。探求活動を積極的に授業に取り込む。	教務・進路	11	新教育課程に応じた学びが実行できたか。	D	総合型選抜や学校推薦型選抜への対策は学校全体で取り組んで成果をあげることができたが、大学入学共通テスト対策についてはほとんどできていない。そのため大学入学共通テストを利用して志望校に合格することは難しい状況である(進路指導)。	授業改革や土曜日、放課後に実施する特別指導を大学入学共通テスト対策に利用するなどして、生徒の学力向上をはかりたい。
学力向上	「高校生のための学びの基礎診断」に備えて、全生徒の基礎学力を向上させる。		12	「高校生のための学びの基礎診断」の結果を踏まえ更なる指導にあてたか。			
	「大学入学共通テスト」に備え、全生徒(大学進学希望者)の基礎学力及び応用力を身につける。		13	「大学入学共通テスト」の結果を踏まえ、学力を向上させ、志望校に入学させることができたか。			
進路指導	新学習指導要領に応じ、アクティブ・ラーニングや資質・能力の育成、カリキュラム・マネジメントの研究と実践を行う。また高大接続改革を推進すべく、そのための研修会などに全教職員が取り組む。		14	新しい時代に相応しい教授法が展開できたか。			

教職員の内外の研修・教務研究	各教科研究授業を行い、教職員が見学し、反省会を行う。	教務・管職	15	自らの授業の糧にし、その後の授業に生かされたか。	B	教科研究会を行い、新課程の新科目への取り組みについて有意義な意見交換ができた。	授業の進め方や教材などについて更に情報交換し、良い取り組みを共有していく機会を増やしていきたい。
	研修後、インプットしたことを、口頭もしくは文書でその他の教職員にアウトプットし、身につけた教養を共有できるようにする。		16	発表者の教養が他の教職員に伝わったか。			
	PTA 向けの公開講座を設ける。	教務	17	授業を受けた保護者が、生徒と同じ立場で授業を受けることにより、学校・教員理解に繋がられたか。	—	コロナ禍で実施せず。判定不能。	今後の実施に関しては検討必要。

【事業目標6】 基本的な生活習慣の確立／自己肯定感の育成／自利利他の精神							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
基本的な生活習慣確立	欠席・遅刻・早退の原因を把握して、適切な指導を行う。	生徒指導・特別支援・学生会	18	欠席・遅刻・早退が減少したか。	B	こまめな個別面談などを通して相談しやすい雰囲気作りを行い生徒一人一人に丁寧な対応はできていたと思うが、解決まで至らなかった事例もある。各部署とより連携が必要(学年会)。その場に応じた対応を行うことは出来たが、初期指導の仕方によってはもっと改善できることもあった(生徒指導)。	学年全体で生徒を見ていくためにも学年会における生徒情報の共有を大切にし、なんでも報告・相談等ができる雰囲気づくりに努める。その上で各部署と連携をしたり、報告・連絡・相談を向上させ、職員間のよりよい関係を構築することが重要。
	身だしなみについて日常的に意識させる。		19	清楚で TPO に応じた高校生らしい服装ができているか。			
初期段階事前指導	ホームルーム・授業・クラブ活動など学校生活の諸活動の場面で生徒の変化に気づき、適切な対応を図る。		20	早い段階で生徒の悩みを見つけ、解決できたか。			
心の安定指導	様々な不安や悩みから言動に変化が表れる生徒に対し、教員が1対1での対話を通じて心の安定を図る。		21	不安や悩みを持つ生徒が安心して相談でき、その相談が解決に向かったか。			
全教職員の連携	全教職員が学年や係などのそれぞれの立場で連携をとり、指導にあたる。		22	不安や悩みを持つ一人の生徒に対し、教職員が把握し、指導にあられたか。			
生徒会クラブ活動の参加	生徒の自主的活動を促す指導をする。	学生会・課外活動	23	全生徒が課外活動に積極的に参加し、教室以外に自分の居場所を確保できているか。	C	コロナ禍で制限がある中、できることを見つけ出し、達成感を得られた生徒もいたが、多くの生徒の自主的活動を促す指導までは及ばなかった。クラブ内の人間関係をはじめ、様々な要因で途中退部する生徒も多く、その後他クラブへの加入もままならなかった。	準備期間を十分に取れるような職員の計画性や早い段階での動き出しが必要。クラブを退部した生徒に対する速やかな指導も必要。
	様々な場面で、周囲の人の気持ちや立場を尊重して発言し行動できるように指導する。		24				
	将来主権者として、世の中の出来事に関心を持ち、行動できるように指導する。		25				
活動運営方法	生徒会・クラブ活動など生徒の自主的な組織のルールやマナーを守り、民主的に運営されるような指導を行う。		26	その活動を通して、社会性、遵法精神を身につけたか。			
文化祭の取組方法	本校文化祭の意義や理念を知り、それを実現するために努力できるような指導を行う。		27	文化祭を通して、生徒個々が人間的に成長できたか。生徒が主体的に企画・運営に携わっているか。	B	生徒会役員はコロナの影響により活動に制限が課される中で、可能な範囲で来校者・全校生徒に満足してもらえる企画を立案し、実行していた。	活動が通常化する中で、以前の文化祭を目標にするのではなく、時代や環境の変化に対応したスタイルの文化祭を目指すことで、コロナを乗り越えた事をプラスに捉え、リスタートすることが理想である。
	文化祭の各企画を各自が立案、準備、運営、協力で尽力できるように指導する。	28	全体目標に対し意思統一して役割を果たせるか。				
	文化祭の係分担について各自が自分の役割を理解し、責任を持って仕事を実行するように指導する。	29	来校者の満足感と、各生徒の充実感・達成感の両立ができていくか。				
	生徒の充実感や達成感と共に高い文化レベルを追求するように指導する。	30					

【事業目標7】 地域と連携し、地域に貢献できる学校を目指す。また地域に開かれた学校作りを行う							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
地域連携・地域貢献	地域行事、ボランティアに積極的に参加する。	課外活動	31	本校の理解を深められたか。	A	キャリア教育の充実を図るため、地域行事やボランティアに積極的に参加し、地域との繋がりを深めるとともに地域からの理解も得られた。 新たに学校紹介動画の YouTube 限定公開と学校紹介リーフレット発行を行った。	HP の充実 (特にクラブ活動)、SNS の利用方法が課題。同窓会とのコラボ企画を実施し卒業生の口コミ拡大を図る
	広報活動の充実を図る。(HP の研究と充実・広報誌の発刊・地方紙への記事の提供など)	生徒募集・広報	32	広く地域の方に本校の活動を知らせ、理解と協力を得られたか。			

【事業目標8】 PTA・同窓会と協力して学校運営を活発化する							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
PTA 連携	PTA 活動のあり方を再検討する。(学校行事・講演会・公開授業・PTA 研修など)	管理職・PTA 係	33	PTA の積極的な参加があったか。本校の教育活動に理解と協力を得られたか。	B	今年度は4年ぶりに研修旅行が実施できた。が、クラスの懇親会などは実施できず、保護者が学校の様子を知る場面が少なかった(PTA)。 役員会を通して役員の顔合わせはできたが、コロナ禍により著しい活動はできなかった(同窓会)。	今後の状況にもよるが、もう少し学級PTA(クラス懇親会)が開催できるようになると、保護者の学校理解が深まるように思われる(PTA)。 行事の再開と、生徒募集とのコラボ企画を実施し、役員と同窓生の活動の充実を図る(同窓会)。
同窓会連携	同窓会活動に対して、同窓生の積極的な参加を促す。	同窓会担当教員	34	同窓生が本校の教育活動に興味を示し、同窓会活動や募集活動に協力的になったか。			

【事業目標9】 卒業生全員の進路希望の実現を目指す							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
自己理解	自らの個性や傾向性と真摯に向き合い、自己理解を深める。自らの長所・短所について自覚的に行動し、それに基づいて将来を構想する。	進路指導・学生会	35	個々の生徒が自らのアイデンティティを確立し、自己実現を目指し、行動しているか。	A	国公立大学9名をはじめ高い進学実績が得られた。総合型選抜入試や公募推薦入試などを希望する生徒が増える中で、本校がこれまで培ってきた「一人ひとりに合わせた個別指導」が効果的に結果に結びついた。 学年ごとの進路ガイダンスや年間を通じて希望者を対象に実施した「飯女と地元企業とをつなぐガイダンス」・「変な大人50人に会おう企画」を通して、生徒の労働観や就職観を養い、将来、社会とどのように関わっていくかを考えた。(キャリア教育)	「飯女と地元企業とをつなぐガイダンス」・「変な大人50人と会おう企画」は放課後の時間を活用し、希望者を対象として実施した。今後は、さらに多くの生徒の参加を可能にするため、全職員の理解や生徒への周知方法に工夫が必要である。(キャリア教育)
受験対応策	校外模試や検定試験を積極的に活用する。面接や小論文に必要なコミュニケーション能力・一般的な知識・論理的な思考力を向上させる。		36	入試・就職試験に合格すべく、基礎力・応用力を身につけたか。			
進路情報提供	進路ガイダンス等を有効に機能させる。有益な進路情報を然るべき時期に、生徒・保護者に向けて伝達する。		37	将来に向けて、個々が考え出すタイミングで、有効な進路学習や情報を提供できたか。			
進学生態向上	大学入学共通テストに備えて、カリキュラムの見直し・改善・再構築を図る。	38	2025年度までに新カリキュラムを作成したか。				
就職活動支援	就職観や労働観を健全に育む。自らの人生を真剣に考え、どのような職業に就くべきかを考察する。	39	就職希望者の全員が合格を得たか。				
探究学習	「何を知っているか」から、知っていることを使って「何ができるようになるか」を重視し、総合的横断的な学びの中で、実社会や実生活で活かせる力を養う。	進路指導・教務・学習	40	社会と自己との関わりから問いを見出し、課題を立て情報を集め、分析、まとめを表現できたか。探究活動に主体的・協働的に取り組めたか。	A	地域・産業・行政と協働し、教科の枠に捉われない様々な活動を通して主体性・協働性・探究性を高めた。自ら探究テーマを設定し、実験・検証を通して社会と向き合う力を養うとともに自分の進路を明確にした。	

【学校評議員会評価】

○女子高がよくなってきていることを嬉しく思っている。朝の挨拶も毎年よくなっている。視線がきちんと合い、にこっとして挨拶してくれるのが良い。

○平成 15 年頃から女子高に対するイメージ変わってきたように思う。「行くところがないから行く」ではなく「子どもを育ててくれる。だから行かせたい。」という学校になってきている。

○“地域から愛され、地域から必要とされる学校”というテーマに関して、民間企業も一緒に考えていきたい。

○一般社会では集団が同じ方向を向くことが求められるが、今の世の中では、同じ方向を向くためにも“みんなバラバラ＝個々を認める“ということを大切にしていかなくてならないということを、女子高の取り組みから感じる。

○生徒対象の「自己肯定感・自己有用感」について問うアンケート結果が低い。これは高校生だけでなく小・中学生も似たような傾向である。地域性もある。具体的な目標を持たせるべき。地域に出て活動し、周囲から見られることによりこれらの感覚は上がっていくと思われる。

○職員の評価では低くなっている項目も、客観的にはもう少し高い評価でも良いのではと感じる。教員だけの評価ではなく、生徒や保護者からのアンケート結果も含めて、評価すべき。